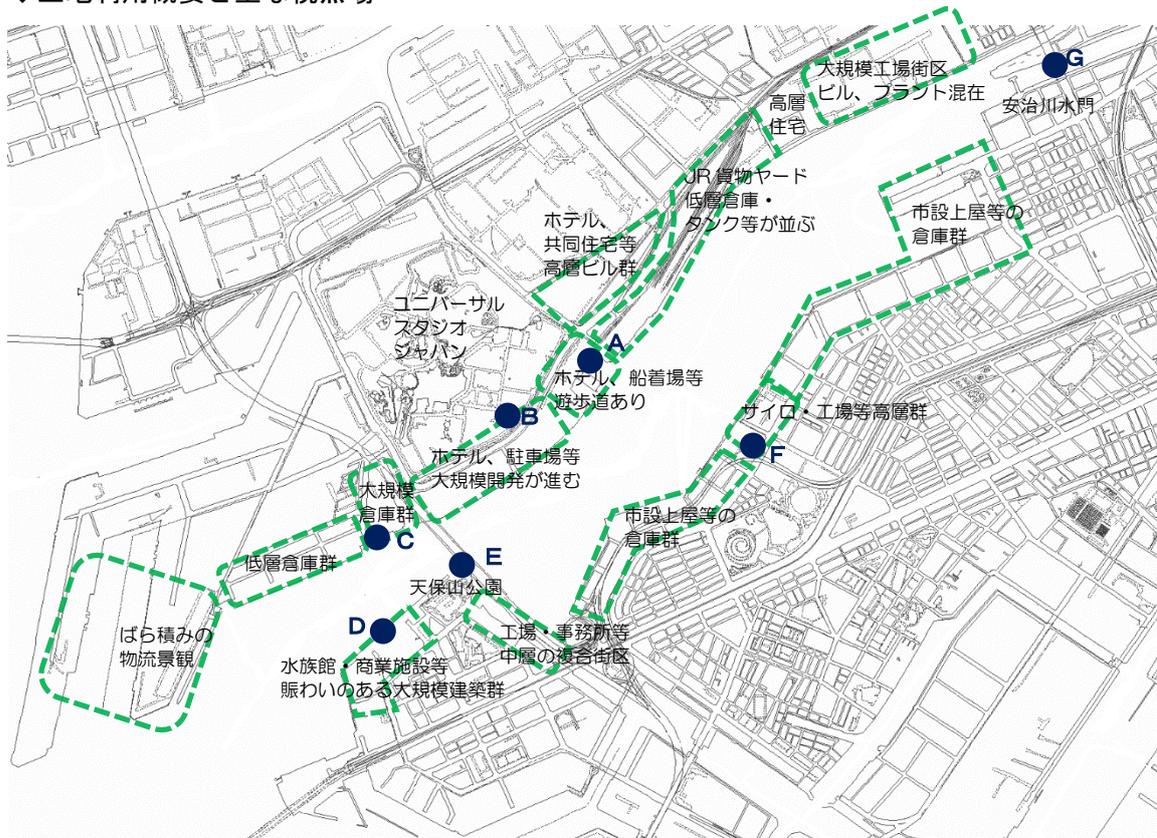
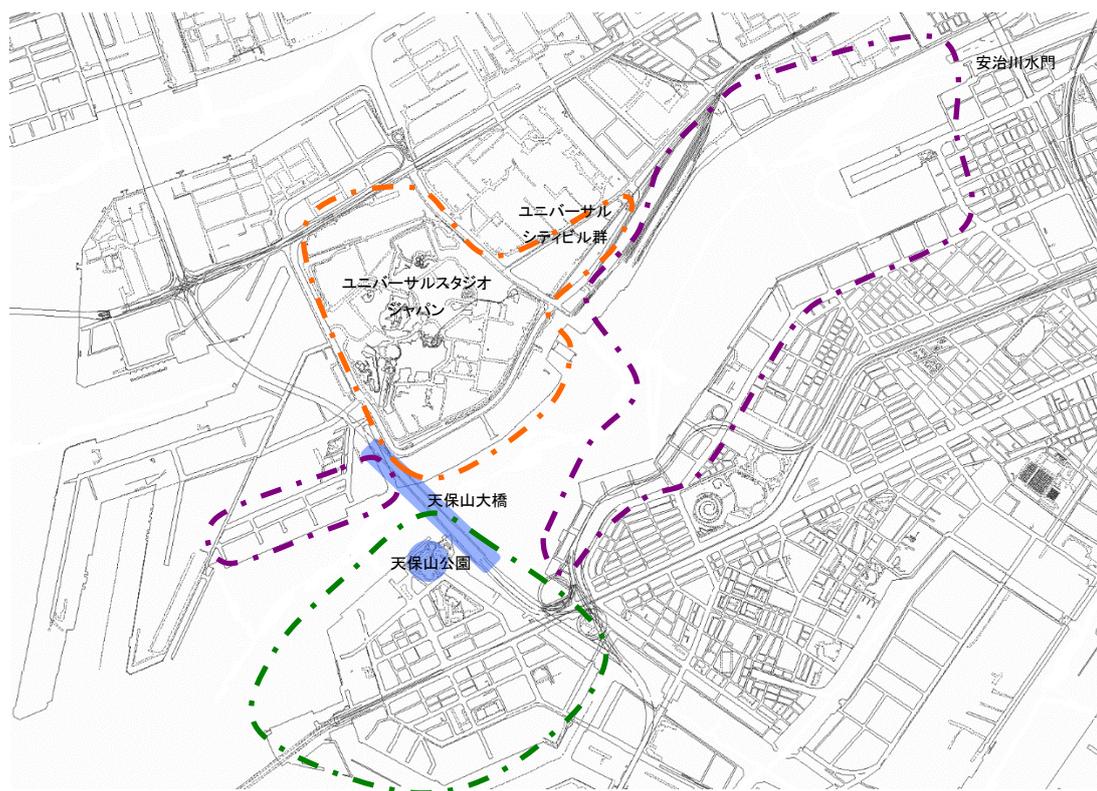


◆土地利用概要と主な視点場



- A : ユニバーサルシティポート
- B : 桜島北公園
- C : 天保山渡船場（桜島側）
- D : 天保山マーケットプレイス（天保山岸壁）
- E : 天保山渡船場（築港側）
- F : 阪神高速朝潮橋パーキングエリア
- G : 国道 43 号線安治川橋（歩道）

◆ 景観資源など景観の現況



《築港・天保山エリア》(□ゾーン)

天保山周辺は、海遊館や大阪文化館・天保山などの印象的なデザインの建物が周辺に立地し、大阪港の顔としての景観形成が進んでいます。

江戸時代から物見遊山で賑わう天保山を中心とする天保山公園は、市民の海辺の憩いの場として親しみのある景観となっており、隣接する大観覧車は大阪港を広く俯瞰できる視点場ともなっています。

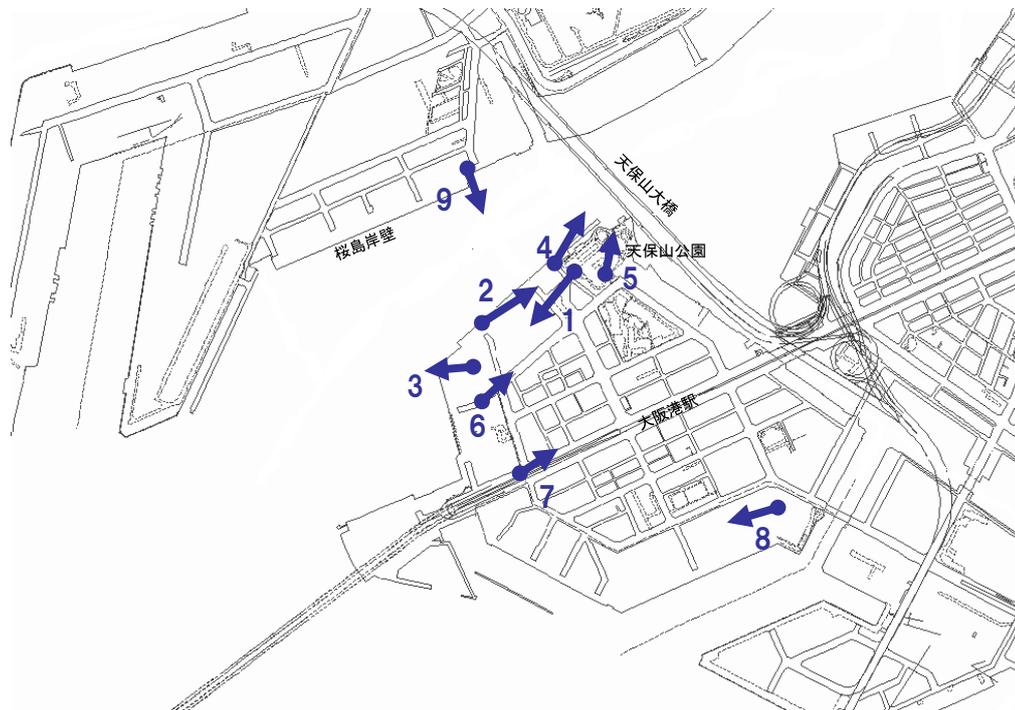
《安治川沿岸エリア》(□ゾーン)

安治川左岸(南側)では、倉庫等の物流系の土地利用が中心となっており、右岸(北側)では、JR貨物や工場が集積しています。いずれの付近も、ユニバーサルスタジオジャパンへの水上アクセスや観光船のルートとして船上からまちなみを見る機会も多くなっています。一方で、産業・物流として岸壁が活用されているため、ほとんど立ち入ることはできません。

《桜島エリア》(□ゾーン)

ユニバーサルスタジオジャパンを中心に多様な集客施設が集積しています。近年では、河川沿いでも開発が進んでおり、ホテルや結婚式場、コンサートホールなども建設され、集客拠点として賑わいのある景観が形成されています。船着場周辺の河川沿いは遊歩道が整備されており、安治川水門から安治川左岸、港大橋、天保山エリアまで一望できる視点場となっています。

《築港・天保山エリア》



【写真 01】 大観覧車からのハーバービレッジ



【写真 02】 マーケットプレイスと天保山岸壁



【写真 03】 サンセット広場から海を望む



【写真 04】 天保山大橋



【写真 05】天保山公園



【写真 06】海遊館と大観覧車



【写真 07】港町をイメージさせる近代建築
※都市景観資源



【写真 08】築港赤レンガ倉庫 (GLION MUSEUM)
※都市景観資源



【写真 09】天保山渡船場より築港を望む